

# 久留米大学

## 御井図書館ニュース

No. 45 2000年12月1日発行

### 情報化と図書館の意味

情報教育センター所長 荒井 功

一年生向けの政治学の講義は、政治過程論と政治意識論とに分けて行なっているけれども、今年は政治意識論だけを担当している。講義の枕として、最初に話すのは人間における生存と生活と生涯の差異である。生きるには衣食住の条件が必要である。生存の役に立ち、生活を構成するものが利益体系である。しかし、衣食住だけで人は生きるのに十分でない。人はパンのみにて生きるわけではないからである。生きる意味がなければ、生涯を生きる甲斐がない。生涯に意味を与えるものが信条体系である。今日、利益体系の蓄積はすすみ、かえって生きる意味こそが希少になっているかのようである。大学と例外ではない。

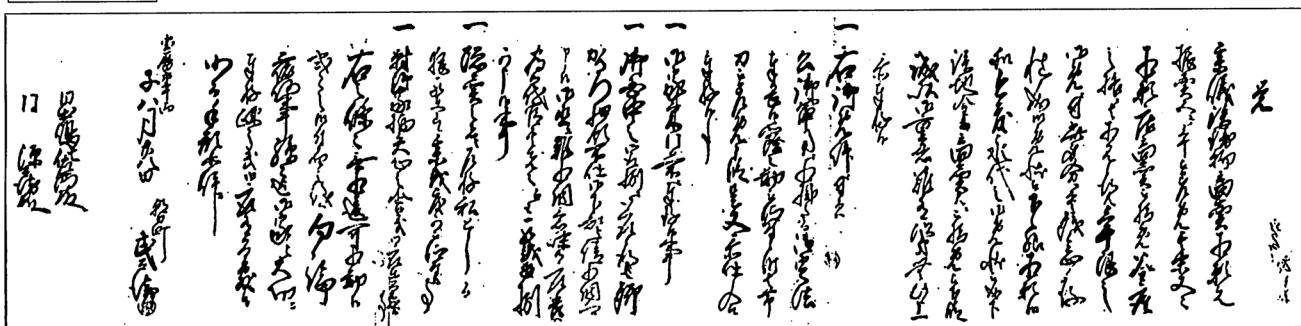
学というものにも、教養の学もあれば実用の学もある。より正確にいえば、学には両方の側面があるといえよう。目的そのものの探求に有意味でもあれば、目的達成の手段ともなるからである。ここで、少なくとも大学という形では、学に携わる人や資源が増大したことは論をまたない。ところが、残念ながら、学の営みが深くなつたとはいえないようである。大学で「一般教養」の衰退が嘆かれるようになって久しいが、同時に「専門教育」のレベル低下が憂慮されている。いずれも実は、学というものが生きる上でもつ意味が自明ではなくなつてきていることの結果である。いわば、大学という利益体系は発展したけれども、その前提たる信条体系は動搖しているように思われるのである。

情報化といわれる現象は、こうした傾向に一層拍車をかけているのではないだろうか。知らないことで知りたいことがすぐにわかれば便利であるし、他人よりも迅速に入手できれば競争上有利でもあろう。大量の情報の中から必要な情報だけを処理できれば、時間と労力の無駄使いをさけられるであろう。かように、情報は生きるのに役立つけれども、役立てるべき人生の意味は何であろうか。時間や労力をかけるのは無意味なのであろうか。遅れたる到達は不毛であろうか。情報化のプロセスが明快なわりには、情報化の意味は明快ではないのである。

図書館が、学に関する情報収集の場としての機能をもたなければならない以上、図書館も情報化するのは避けがたいことである。けれども、図書館が、使い捨て情報の市場のようであつてほしくはない。情報を生かす目的を思索する場であつてほしいと思うのは、空しい願いなのであろうか。人は情報のみにて生きるにあらず。生きる意味を与える思索が必要である。すくなくとも、私は生きる意味を思索するために図書館を使いたいと思う。

#### 特 集

当館所蔵の貴重な郷土資料『日出嶋家文書』を紹介します。詳細は3ページをご覧下さい。



宝暦6(1756)年8月28日に小城城下朝日町武兵衛が鉄鋳物の振売を願出でて、永代の免状を許可された時に差出した誓約書。

---

# 「私にとっての読書と図書館」

商学部4年 柏木浩子

---

私の一日はいつも読書で終わる。寝る前に必ず活字を見ないと眠れないからだ。こんな習慣は、いつから始まつたものかも分からぬほど長い。そんな私が「本」について思うことは、どの本にもそれぞれに適した場所があるのではないか、ということだ。大学図書館と公共図書館の違いにも、本がもつこののような特徴がより明確に出ているように思う。

大学図書館は「知る」または「調べる」ことを目的とし、公共図書館は「読む」ことを目的としていることが多い。私は大学図書館を調べものやテスト前の学習室がわり以外に利用することはない。初めから置いてある本が限定されているので、用がなければ行かないからだ。他方で公共図書館の場合は、新着本を探したり、時には暇つぶしのためにも利用できる。用がなくても気軽にに行くことができる。両者の間には、この違いが一番大きいのではないだろうか。それが良いか悪いかということではなく、違いとして明確に現れているということだ。

大学図書館というのは、あらかじめ読む人を想定して本を選定している。大学によっても専門性に偏りが見られるほど幅は狭いが、深い。それに比べて公共図書館は、読者層の年齢もジャンルの幅も広いが、浅い。そこでは「専門性を深める」という意志を持つ人が来るというより「知識として読む」くらいのケースが大半を占めるし、大学ではとても取り扱いにくいと思われる本や雑誌も豊富に置いている。だから、本に適した場所として考えると、大学の図書館の方がどちらかというと当てはまるのではないか。

私の場合、同じ本を何回も繰り返して読むので、本を図書館で借りるよりも買う方がかなり多い。そのため、毎月「書籍代」として結構な出費を強いられるが、一部とはいえ図書館が自分の興味のある本を代わりに買ってくれることを考えると、図書館は本当に有りがたい存在だと思う。

私にとって、読書は生活の一部となっているし、これまでの人生の中でも大きく役立ってきたと思う。「活字離れ」が言いはやされる今日、少しでも本と接する時間をもてれば、その「少し」が自分自身を内面から大きく成長させてくれると、日々実感している。



---

# ひでしま 日出嶋家文書

文学部助教授 池畠 裕樹

---

肥前国小城藩士日出嶋家が、同国内の鋳物師支配を行うようになった嚆矢は、同家の由緒書によると、清和天皇の貞觀9（867）年に、禁中に怪異が続いた時、兵衛太夫広純が禁中の四方に鎮轡を立てて、物怪を退散させた功によるという。この際、禁中の四方から火気が日の出る様に吹き出たために、「秀嶋」の姓を「日出嶋」に改めて、以来鋳物師の司になったとする。その後、広純の六代の孫周章は頼朝より判物をもらう等軍忠が多かったが、高嶋氏に嫁いだ姉の縁で、神埼郡一郡の鋳物司を分割したという。

鋳物司の勤仕は中世を通じて継続しているが、系図上、中興の祖とされているのが、雅楽助である。龍造寺隆信に仕えた彼は、信重と称したが、天正12（1584）年の隆信没後は鍋島直茂に仕え、与賀の戦で蒲池鎮並を討った功績により、加増を受けて、直茂からは一字を拝領し、「茂次」と改名した。朝鮮出兵では鉄砲大将として、鉄砲玉等の鋳物作製に携った。

茂次の嫡子源兵衛が、政家に殉死した後、その嫡子二左衛門代の元和3（1617）年に、佐賀藩主鍋島勝茂は、嫡男元茂に父直茂の隠居料を中心にして、7万3千石余の知行地と家臣を分与し、後の小城藩の母体が形成された。これに伴い、日出嶋二左衛門も元茂に配属され、小城に移転した。これにより、佐賀藩（支藩を含む）全体の鋳物類の支配は、小城の日出嶋家が管理することになった。一方、この時期に家伝の綸旨・頼朝判物・秀吉判物は藩主元茂に預けられ、代りに元茂の鋳物司判物が同家には残された。

平成12年度に、福岡市中央区の古書肆から購入した「日出嶋家文書」410点の半数は、鋳物支配に関する史料である。現在、鋳物師に関する研究は、中川弘泰『近世鋳物師社会の構造』や笛本正治『真継家と近世の鋳物師』等に代表されるように、近世を通じてほぼ全国の鋳物師を支配した下級公家真継家を扱ったものが中心となっている。ただ、「真継家配下鋳物師人名録」（前掲笛本氏著書所収）によると、九州は筑前・豊前を除けば、真継家の支配力は弱く、肥前国においては松浦郡田代（現松浦市新厨町）に平井・藤川の両名がいるのみである。この意味では、肥前の鋳物師支配は中央のそれとは別個に全く地方独自の支配に委ねられていたといえる。

さて日出嶋家の支配区域は、基本的には佐賀領（支藩を含む）であるが、支配人数は天明4（1784）年から4年間で小城近辺では、のべ81人に97枚の免札が発行されている。領内全般の数はわからない。また同家が持つ権限は、鉄鑄物・鉄地金・鋳掛の免札の発行・没収と運上銀の徴収が中心で、それに対して毎年合力米が藩庫から支給されている。

しかし、免札の発行をめぐる紛擾は度々起っている。例えば、寛延4（1751）年3月には日出嶋二左衛門配下の伊万里町横尾武右衛門等3人に、坊所在住の高嶋七郎兵衛なるものから、無許可鍋釜商売を行っているとのことで、商売停止が命ぜられた。彼等は小城よりの免状で商売をしている旨返事したが、聞入れてくれない。松浦郡中は高嶋の手印をもって代々運営しており、たとえ小城よりの免状があるとも支配の内であるので、差し留る旨強硬な態度を繰返した。結局は佐賀藩当局の出現で、高嶋は夜逃げ同前に退去していった。

勿論、親類中の騒擾もある。享保19（1734）年5月に卯右衛門は家譜を西ノ丸に提出した。これは同族秀嶋長右衛門の免状の無断発行が原因していた。長右衛門の子五郎兵衛との紛争は史料数も多い。宝暦初年頃から日出嶋二左衛門支配下の諫早や塩田町で、無許可の商売人が増加していた。やむなく同9（1759）年3月に取り押えた処、五郎兵衛の手印で営業が行われていた。この時は双方の度重なる会合と、手紙の往復の結果、判物の不所持・鋳物司としての知識の欠如・本家に対する侮蔑等を理由に五郎兵衛の免札配布は廃止された。さらに天明4（1784）年2月には坊所村高嶋与惣右衛門なる者の配下の者が拘留されている。この者は太宰府釜屋の免状を所持しており、他国の免状で領内の商売は禁止ということで、排除された。

幕末になると、藩の政策の展開に伴い、また本藩との力関係により、鋳物師支配の方法が変動し、かつ洋式兵術の導入と共に、鋳物（大砲、鉄砲）の需要が増加していく。本文書中の130点余の藩政史料と併せることによって、本文書の利用価値はさらに深まるであろう。

## 2001年度新規購入・中止雑誌紹介

### 新規購入雑誌

タ イ ト ル	発行国	発行頻度
都市社会学年報	日本	A
東アジア地域研究	日本	A
東洋文化研究	日本	A
日本医事新報	日本	W
ブリーフサイコセラピー研究	日本	1 N
月刊ナーシング	日本	13 N
発達心理学研究	日本	2 N
家族療法研究	日本	3 N
基礎心理学研究	日本	2 N
子ども家庭福祉情報	日本	1 N
子どもの虐待とレグレクト	日本	2 N
こころの健康	日本	2 N
心の臨床ア・ラ・カルト	日本	4 N
日本公衆衛生学会誌	日本	12 N
精神科診断学	日本	4 N
食生活	日本	12 N
心理学ワールド	日本	4 N
ストレス科学	日本	4 N
VISION	日本	4 N
CHRONICLE OF HIGHER EDUCATION	USA	49 N
MEN AND MASCULINITIES	GBR	Q
LINGUISTICS AND PHILOSOPHY	NDL	6 N
LAW AND SOCIETY REVIEW	USA	Q
LAW AND SOCIAL INQUIRY	USA	Q
JOURNAL OF MUSCLE RESEARCH AND CELL MOTILITY	NDL	8 N
AGEING AND SOCIETY	GBR	6 N
AMERICAN JOURNAL OF HEALTH PROMOTION	USA	B-M
AMERICAN JOURNAL OF PSYCHIATRY	USA	M
ANXIETY, STRESS AND COPING	GBR	4 N
ARCHIVES OF GENERAL PSYCHIATRY	USA	M
BEHAVIOR MODIFICATION	USA	5 N
BEHAVIOR THERAPY	USA	Q
BRITISH JOURNAL OF PSYCHIATRY	GBR	M
COMMUNICATION MONOGRAPHS	USA	Q
HEALTH AND STRESS	USA	M
HUMAN COMMUNICATION RESEARCH	GBR	Q
INTERNATIONAL JOURNAL OF BEHAVIORAL MEDICINE	USA	Q
INTERNATIONAL JOURNAL OF PSYCHOANALYSIS	GBR	6 N
INTERNATIONAL JOURNAL OF STRESS MANAGEMENT	USA	Q
JOURNAL OF OCCUPATIONAL HEALTH PSYCHOLOGY	USA	Q
JOURNAL OF PSYCHOSOMATIC RESEARCH	USA	12 N
JOURNAL OF SOCIAL AND HEALTH BEHAVIOR	USA	Q
JOURNAL OF TRAUMATIC STRESS	USA	4 N
LEADERSHIP QUARTERLY	USA	Q
PERSONALITY AND SOCIAL PSYCHOLOGY BULLETIN	USA	M
PSYCHOANALYTIC DIALOGUE	USA	Q
PSYCHOANALYTIC INQUIRY	USA	Q
PSYCHOANALYTIC PSYCHOLOGY	USA	Q
PSYCHOLOGY, HEALTH AND MEDICINE	GBR	4 N
PSYCHOSOMATIC MEDICINE	USA	B-M
PSYCHOSOMATICS	USA	B-M
PSYCHOTHERAPY AND PSYCHOSOMATICS	CHE	6 N
SCANDINAVIAN JOURNAL OF PSYCHOLOGY	GBR	5 N
STRESS	USA	4 N
VISION RESEARCH	GBR	28 N

### 中止雑誌

タ イ ト ル	発行国	発行頻度
現代化学	日本	M
書誌索引展望	(休刊)	日本
CIPIC ジャーナル	日本	Q
コピライト	日本	M
C MAGAZINE	日本	M
財界観測	(休刊)	日本
グローバル経営	日本	M
月刊フォーラム	(廃刊)	日本
	日本	11 N
	日本	M

タ イ ド ル	発 行 国	発行頻度
ALTERNATIVES : SOCIAL TRANSFORMATION AND HUMANE GOVERNANCE	USA	Q
SOCIAL COGNITION	USA	Q
BIBLIOGRAPHIE DER WIRTSCHAFTSWISSENSCHAFTEN	DEU	S-A
ACTA DU COUGRES NATIONA DES SOCIETES SAVANTES	FRA	
ANNALES DE LA SOCIETE FRANCAISE DE NUMISMATIQUE	FRA	A
ARCHEOLOGIE MEDIEVALE	(休刊)	FRA A
BULLETIN DE LA SOCIETE FRANCAISE DE NOMISMATIQUE	FRA	
COMPTE RENDUS DE L'ACADEMIE DES INSCRIPTIONS ET BELLES-LETTERS	GBR	Q
DEUTSCHES ARCHIV	DEU	2 N
JOURNAL DES SAVANTS	(休刊)	FRA A
MEDIEVALES	FRA	2 N
MEMORIES DE LA SOCIETE DES ANTIQUAIRES DE L'OUEST	FRA	
MISCELLANIA MEDIEVALIA IN MEMORIAM J.F.NIERMEYER	NLD	
OCCASIONAL PAPER/IMF	USA	8 N
OECD FINANCIAL STATISTICS. METHODOLOGICAL SUPPLEMENT (EVERY 3 YEARS)	(休刊)	FRA 1 N / 3 Y
REPORT ON CURRENCY AND FINANCE INDIA	(休刊)	NLD A
STUDI GREGORIANI	(休刊)	
ARTIFICIAL INTELLIGENCE IN ENGINEERING	GBR	4 N
CYBERNETICS AND SYSTEMS	USA	8 N
GROCER	GBR	W
ZEITSCHRIFT FUER BETRIEBSWIRTSCHAFT	DEU	M
ZEITSCHRIFT FUER VERKEHRSWISSENSCHAFT	DEU	Q
JOURNAL OF CURRICULM STUDIES	GBR	B-M
SINN UND FORM	DEU	6 N

### 寄 贈 図 書 (学内関係者)

2000/09/01~2000/11/30受入分

寄贈者氏名	著者名	タ イ ド ル	出 版 社
中川原 德仁	Augstein, Rudolf	Preussens Friedrich und die Deutschen	Fischer Taschenbuch Verlag
中川原 德仁	Taylor, A.J.P.	Bismarck : the man and the statesman	Knopf
中川原 德仁	Davis, Arthur N.	The Kaiser I knew : my fourteen years with the Kaiser	Hodder and Stoughton
中川原 德仁	Nelson, Walter Henry	The soldier kings : the house of Hohenzollern	Dent
中川原 德仁	Henderson, W.O.	Studies in German colonial history	Cass
中川原 德仁	Balfour, Michael	The Kaiser and his times	Houghton Mifflin Company
中川原 德仁	Klessmann, Eckart	Prinz Louis Ferdinand von Preussen 1772-1806 : Gestalt einer Zeitenwende (DTV-No.1366)	Deutscher Taschenbuch Verlag
中川原 德仁	Klessmann, Eckart	Deutschland unter Napoleon in Augenzeugenberichten (DTV-No.1131)	Deutscher Taschenbuch Verlag
中川原 德仁	Schoeps, Hans-Joachim	Preußen und Deutschland Wandlungen seit 1763-2. Auflage	Haude & Spenerische
中川原 德仁	Höhn, Reinhard	Scharnhorsts Vermächtnis	Bernard & Graefe Verlag
中川原 德仁	Beuys, Barbara	Der Große Kurfürst : der Mann, der Preußen schuf (Roworo Sachbuch)	Rowohlt
中川原 德仁	Hartau, Friedrich	Wilhelm II. in Selbstzeugnissen und Bilddokumenten (Rowohlt Monographien-No.264)	Rowohlt
中川原 德仁	Gooch, G.P.	Friedrich der Große : Herrscher-Schriftsteller-Mensch (Heyne Biographien-No.12)	Wilhelm Heyne Verlag
中川原 德仁	Böhme, Helmut	Die Reichsgründung (DTV Dokumente-No.428)	Deutscher Taschenbuch Verlag
中川原 德仁	Eyck, Erich	Bismarck : und das deutsche Reich (Heyne Biographien-No.9)	W. Heyne
中川原 德仁	Marx, Karlほか	Deutsche Geschichte im 19. [neunzehnten] Jahrhundert	Fischer-Bücherei
中川原 德仁	Rosner, Karl	Erinnerungen des Kronprinzen Wirherm : aus den Aufzeichnungen, Dokumenten, Tagebüchern und Gesprächen	J.G. Cotta'sche Buchhandlung Nachfolger
中川原 德仁	Sethe, Paul	Im Banne der Grauen Eminenz : Charakterbilder aus der Regierungszeit Wilhelms II.	Franck
中川原 德仁	Lange, Annemarie	Berlin zur zeit Bevels und Bismarcks : Zwischen Reichsgründung und Jahrhundertwende	Dietz Verlag
中川原 德仁	Gerard, James Watson.	Face to face with Kaiserism	Doran
中川原 德仁	Hamerow, Theodore S.	Struggles and accomplishments (The social foundations of German unification, 1858-1871)	Princeton University Press
中川原 德仁	Hindenburg, Paul von	Aus meinem Leben	S. Hirzel
中川原 德仁	Golorvin, K. von	Meine erinnerungen : der letzte glanz des zarenhofes	Wilhelm Borngräber Verlag
張 国興	朱 維瑜主編	世界年鑑-1997	中央通訊社
張 国興	The China News, Publication Dept.	Directory of Taiwan -1999	The China News
張 国興	林 紀東ほか	新編六法参照法令判解全書-修訂版	五南図書出版
趙 煙文	皮 細庚	新編日語語法教程	上海外語教育出版
趙 煙文	Davies, Stanley ほか	Economics made easy=英文経済学入門	洋販出版

※敬称略

## 図書館利用状況（2000年度）

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
開館日数		28	26	30	30	29	27	30	28	228
入館者数	前年同期比	-1,525	1,560	-1,106	3,869	1,061	-978	-271	395	3,005
	学内者	16,395	23,157	25,185	38,633	10,130	15,183	20,839	21,177	170,699
	前年同期比	-64	-107	-71	-26	15	-40	-33	-72	-398
	地域住民	82	67	102	104	153	112	81	58	759
地域住民登録者数	前年同期比	8	-15	0	-2	-6	-1	-7	3	-20
		42	11	24	14	17	13	7	8	136
貸出冊数(学生)	前年同期比	-210	217	-242	-254	48	-411	-337	-501	-1,690
	全 体	938	2,032	2,272	5,191	1,054	1,292	1,771	2,129	16,679
	前年同期比	-9	66	83	-141	13	-70	-24	-107	-189
	内、夜間	216	409	539	983	28	200	451	456	3,282
	前年同期比	8	13	16	167	-69	-43	-45	15	62
貸出冊数(教職員)	内、土・日曜	46	124	108	522	103	88	127	165	1,283
	前年同期比	-28	-72	-191	-125	-58	27	60	1	-386
	全 体	221	238	196	263	160	230	298	197	1,803
	前年同期比	-52	3	-27	49	-5	3	94	3	68
	内、夜間	48	77	55	100	12	40	139	36	507
貸出冊数(地域住民)	前年同期比	-23	-19	-9	54	4	17	-18	-15	-9
	内、土・日曜	28	4	16	60	15	29	18	26	196
	前年同期比	21	7	15	-5	29	9	-40	-39	-3
	全 体	50	69	78	26	105	109	63	79	579
	前年同期比	-7	-4	16	1	-1	1	-5	-33	-32
AVライブラリー利用件数	内、夜間	5	13	33	5	2	19	13	7	97
	前年同期比	25	-21	16	-10	30	18	-22	-14	22
	内、土・日曜	29	21	33	15	43	39	34	41	255
	前年同期比	20	-2	-3	-3	2	-2	3	7	22
	学 生	24	16	13	7	5	5	8	17	95
相互利用(文献複写)申込件数	前年同期比	4	-1	4	1	0	6	0	4	18
	教 職 員	5	3	11	2	0	6	0	5	32
	前年同期比	0	-2	9	0	2	0	-1	0	8
	地 域 住 民	0	0	10	0	2	0	0	0	12
	前年同期比	10	40	-22	-38	-14	-7	3	48	20
相互利用(現物貸借)申込件数	学 生	26	58	65	41	32	20	42	65	349
	前年同期比	29	-5	-26	-8	22	-1	-19	7	-1
	教 職 員	35	6	11	14	47	17	5	18	153
	前年同期比	0	0	-5	-5	-2	0	0	-3	-15
	地 域 住 民	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相互利用(現物貸借)申込件数	前年同期比	-7	11	1	0	5	0	1	2	13
	学 生	4	13	9	0	6	5	8	8	53
	前年同期比	-15	-3	0	-8	11	-1	3	7	-6
	教 職 員	1	3	5	4	14	11	14	10	62
	前年同期比	0	0	3	0	0	0	0	0	3
	地 域 住 民	0	0	3	0	0	0	0	0	3

### 〈貸出冊数についての注記〉

1. 教職員の貸出には、専任教員の研究室貸出分を含まない。
2. “夜間”とは、17:00～20:00の夜間開館時間を指す。  
\*なお、4月1日～11日、8月1日～9月12日の期間は夜間開館を行っていない。
3. 7月4日～7月28日の期間は地域住民への館外貸出は停止している。

編集・発行 久留米大学御井図書館  
 〒839-8502 久留米市御井町1635  
 TEL (0942) 44-4015  
 FAX (0942) 43-0348  
<http://lib.mii.kurume-u.ac.jp/>